

歯科衛生士部門より

歯科衛生士 村上 ゆみ

はじめまして。診療支援部 歯科衛生士部門の村上ゆみです。

私が新潟大学医歯学総合病院に勤務する前は、一般診療の開業医と学生実習の頃から憧れていた矯正科の先生の下で勤務してきました。余談ですが、衛生士ではなく他の職種にも付きたいと思い旧市民病院の心臓外科、小児科のクラーク業務していたことがあります。

開業医では、歯科医師と歯科衛生士だけの限られた小さな環境の中で働いていました。勤務して実感した事は多種職の医療スタッフとの連携した診療が可能であるという事でした。旧外来棟では、補綴科・口腔外科・予防歯科と配属されました。窓からはきれいな桜が見え診療しながらもお花見ができました。各診療科での勤務では診療介助だけではなく、看護師と共に各診療科における運営、在庫管理など、診療以外も学べました。

現在は新外来棟になり、ブロック5（口腔外科・画像診断・加齢歯科）に配属されています。窓がなく循環が悪いのか何故か暑いのです。



ベトナム旅行にて

旧外来では自分以外のケアをあまり目にする機会がなかったので、先輩衛生士のケアを勉強させてもらい、これまで自分が専門で行ってきた口腔ケアが単に歯科領域にとどまらない意義のあることを改めて実感しています。口腔ケアは術前、術後の二次感染を軽減できるとされており、口腔が全身の一部であることを日々の診療より感じます。口腔ケアを行った患者さんが心身共に改善している姿をみて大きな喜びを感じるとともに、さらなる技術の向上を目指すのであれば、という励みにもなります。

私が勤務して十数年が経ちましたが、その間に素敵な出会い、尊敬でき信頼のおける友人ができました。まさかこの歳になりそんな素敵な友人が出来るのかとびっくりです。

未滿時保育だった2人の子供も、娘は今年専門学生となり2人で卒業旅行で初の海外に行き、香港空港ラウンジで一泊してしまうというハプニングにあたり、息子は一緒にコンサートに行っても他人のふりをする反抗期な中学3年生と成長しました。

最後に、日々ご指導して頂いている先生方にこの場をお借りして御礼申し上げます。

今後共にご指導いただきますようどうぞよろしくお願いいたします。



2015年看護師・歯科衛生士懇親会にて

言語治療室より

医歯学総合病院・言語治療室・特任助教 大 湊 麗

良い季節になると、歯学部〇年生のとても可愛い女の子から、高校の同窓会を是非一緒に、大変嬉しいお誘いを頂くことがあります。普段、閉鎖的な環境にいますと気付かないのですが、そのような機会で日頃関わることでできない先生方とお話させていただくと、言語治療室はどこにあるのか、どのような患者さんを診ているのかといった基本的なご質問をいただくことが予想以上に多いものです。患者さんを通して関わりの深い、口腔外科、矯正歯科、小児歯科、予防歯科などの先生方はよくご存知と安心しておりますが、その他の先生方にはあまり馴染みのないところと再認識した記憶があり、今回はこの場をお借りして少しご紹介させていただけたらと思います。

まず私がしていることは言語治療室の名称通りで、言語を治すことを目的としています。言語を治すといいますと大人になってからでは難しいことが多いので、幼児期のお子さんを中心です。最も身近なところでは、もうすぐ学校に入るのに赤ちゃん語が残ったままで正しい発音ができないといったような状態でしょうか。これは幼児期には誰もが経験する可能性があるものですが、お母さんは大変心配されて病院に連れて来られるわけです。この場合の多くは、構音発達過程における晩期獲得音の早期獲得音への置換といった単純なもので、適切な言語治療があれば早期に治してあげることができます。また、子どもの言語発達に関連して、言葉が詰まって滑らかに出てこなかったり、発達のスピードがやや遅かったりする場合など、歯科だけでなく本学の小児言語発達領域に広く関わらせていただいています。

この他に、お口の中に先天的な異常があって治療が必要なお子さんがおり、言語治療室が最も力を入れて取り組んでいることは口唇口蓋裂の言語治療です。口唇口蓋裂のお子さんの言語には鼻咽腔閉鎖機能が大変重要ですが、この鼻咽腔閉鎖機能が未熟であったり、うまく発達してくれなかつ

たりすると、上記の幼児音残存といったような単純な言語症状に留まることは少なく、口蓋裂言語と呼ばれる特異な言語症状を示します。このような心配に対し、早期からの正常な言語発達の促進、言語障害の予防を目的として、お子さんが1歳を過ぎた頃から言語治療室にも来ていただいています。適切な時期に手術を行い、成長に伴う言語発達に向けて早くから取り組むことで、できるだけ言語の問題を少なくすることが可能となっています。しかし、最大限の努力下であってもやむを得ず4歳頃を過ぎても残存するお子さんがおり、この場合には本格的に言語治療を行うこととなり、構音時の正常な鼻咽腔閉鎖機能の獲得を目的として、特異な構音操作による音の誤りを一つずつ修正していきます。言語治療はお子さんにとっては言語の学習であり、この学習がうまく進まないとなれば更なる心配を生むこととなりますが、それはまた、この分野にご興味がおありでしたら。

ほとんどのお子さんにおいては、就学前には明瞭な言語を獲得し、活発にお話ができるお子さんに育てられています。いずれにしても言語を治すということは一見簡単そうに思われますが、どうやって治すに至るかは、一応それなりの専門的なテクニックが必要になり、それが言語治療室の特色だと思います。

最後に、言語治療室の場所は外来棟5階にあります。5階のフロアには外来手術室などがありますので普段は静かですが、言語治療室の元気な患者さんがいらっしやると大変賑やかになり、クラークさんをはじめ皆さまにご迷惑をおかけしています。いつも本当に申し訳ありません、今後ともよろしく願いいたします。そのやや緊張した雰囲気の外来手術室の反対側の通路に、お子さんの心を惹きつけるための楽しい小部屋がありまして、そこが言語治療室です。言語にご興味がおありの方、是非遊びにいらしてください。